



問

本庁 企画政策課 地方創生推進室（シンガーデン事務局）Tel: 474-1111（内線 254）

こころざしコラム 第24回 坂本貴弘

『ふるさと納税の動向と地域ブランドづくりの目指すべき道』



コラムニスト：ふじやま学校代表取締役 坂本貴弘 神奈川県出身。志布志ブランド推進アドバイザーとしてブランド作りに携わる。東京大学卒業。

地域ブランドづくりの観点から本コラムでも何度かふれさせていただいてきている「ふるさと納税推進事業」を通じて頂いた、2015年度の寄附額は7億円以上、申し込み件数3.5万件以上となり、受入額・申込件数の順位として全国30位前後（※1）となりました。

ふるさと納税制度（※2）は「税制改正による利便性向上」、「メディアによる認知拡大」、「インターネットによる申込・受付サイトの充実」等により、2015年度は全国的にも活用納税額が急増（前年同期比3.9倍以上（※3））しました。

また、2015年度の年間納税金額が全体で1500億円以上とも言われる現行制度において還付・控除が受けられる所得税・住民税の対象金額は数値上2兆円以上あり（※3）、現状わずか8%程度の活用状況のためさらに大幅な余地があります。

一方で、昨年12月末からこの3月下旬までに新聞大手各紙がふるさと納税のあり方や安易な「特典競争」に疑問符をつける記事などを社説レベルで書き連ね、その流れを受けて4月1日総務省より各自治体へ換金性や資産性の高い返礼品等の送付を禁止する「自粛令」（※4）が出されるなど、加熱する動きにブレイキ

をかける流れも生まれつつあります。

この点、特に高い還元率や換金性・資産性を謳うことなく、制度本来の趣旨に則り、地域の特徴や特産物の良さを前面に打ち出している志布志としては、メディアや政府による批評や規制は過度に懸念されるものではないですが、ふるさと納税全体のイメージ低下や「納税金額目標」のみを打ち出す、「商品」「売り尽くしセール」等の表現は避ける、など募集告知の仕方に誤解を生まなため細心の注意を払う必要があるかもしれません。

具体的には、本コラム第21回でも述べさせていただきましたが、税金と各寄附者のお金こそが本制度運用の源泉であること、そして入口は特産品の魅力がもたらしくとも全国1700の自治体からわざわざ志布志市を選び納税して下さったことを鑑み、「寄附金の使い道に関する入念な検討」や「寄附金の使途に関



観光及び生活環境に関する事業



福祉に関する事業

※1・・・ふるさとチョイス」2016年1月27日公表データより  
 ※2・・・ふるさと納税」制度概要について（本コラム第20回参照）  
 ※3・・・平成27年版版財政白書」等、総務省公表情報より参照・集計  
 ※4・・・地方税法、同法施行令、同法施行規則の改正等について（平成28年4月1日付総務省令第7号）

して寄附者をはじめ各方面への説明責任をしっかりと果たしていくこと」がとても大切になるかと思えます。

ふるさと納税制度には、全国の志布志ファンへ志布志市を「売り込む」、「呼び込む」様々なきっかけがあるからこそ、逐一本来のあるべき立ち返り、志布志にご縁をいただいた寄附者一人ひとり、そして地域生産者一人ひとりの顔を忘れずに取り組むことで志布志市の地域ブランドづくりがさらに推進されることと思えます。



写真左上：東京での撮影  
 写真左下：志布志市内での撮影  
 写真右：市内飲食店での撮影

動画の視聴は下記 URL または右の QR コードから  
[http://www.city.shibushi.lg.jp/theme/brand\\_animation/](http://www.city.shibushi.lg.jp/theme/brand_animation/)



4月24日に開催された志布志市市制施行10周年記念式典で記念ビデオを作りました。

会場で記念ビデオを見た多くの方は上映開始と同時に「あれっ？上映作品を間違えたのかな」と違和感を覚えた方も多かったと思います。

当初は、平成18年1月1日から今日までの10年間の歩みを時系列に沿って上映することも考えられましたが、今回は動画でなければ伝わらないことこだわった作品となりました。

今回の制作を担当したスタジオワイルス代表の高橋健太郎さんは「この作品を見た人が志布志市に住んでみたい」「このまちに住んでよかった」と思えるような作品を作りたいと思ったそうです。

そして、短い制作期間でしたが、精力的に収録や取材を重ねてショートドラマ「マチオモイ」が完成しました。

式典で上映を行ったところ会場内からは大きな拍手が鳴り止むことなく続きました。当日会場で見ることの出来なかつた方からの多くの再上映の声を受けて、5月1日に志布志市文化会館で再度上映されました。

今後も、動画での情報発信に引き続き行つてまいりますので、応援を宜しくお願いいたします。



【インタビュー】

『脚本段階から、「志布志の人になるべく多く出て欲しい」「志布志を離れて頑張っている人も紹介したい」その思いがあり、約10日間の制作期間の中で志布志市内、東京と駆け回りました。急な撮影依頼にもかかわらず、「来てくれてありがとう」というお礼の言葉を多くの市民の方から頂きました。本当に志布志は温かいステキな街だと改めて感じました。エンディングのシーンでは急な呼びかけにもかかわらず、160名を超える市民の方に市役所に集まって頂き、感動的なシーンを撮影することが出来ました。心から感謝致します。この作品が10周年の記念の映像として、多くの人々に親しまれることを心から願っています』と語る高橋健太郎さん。